

市職員のアイデアから地場織物を全国へ発信!!

オリジナル名札ケースを開発

大月織物工業協同組合(和田廣行理事長 組合員35社)は大月市と連携し、オリジナル商品として市職員のための「名札ケース」を制作、3月29日にその発表会が行われ、和田廣行理事長らが注文



石井市長(左)に手渡す和田理事長

のあった147個を納品するため大月市役所を訪れ、石井由己雄市長に手渡した。

これは「大月市職員提案制度」による発案を元に作製されたもので、新たな名札ケースは

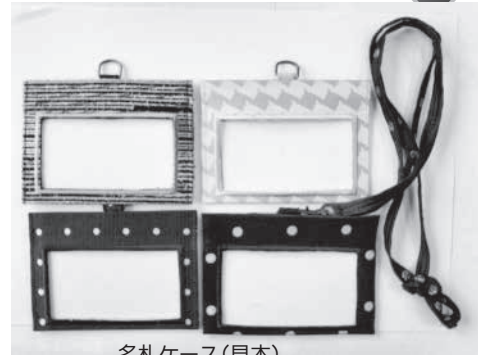
この4月から大月市役所の職員が業務中に身に付け、「大月の織物」を県内外に発信PRすることとなった。

商品の開発は、大月市から製品化の依頼を受けた組合がデザインや柄などの企画を行い、組合員の製造業者が製品化に協力した。大月の織物の特徴は、細番手という極細の糸を使い織細に織り上げ高密度できめの細かい生地作りを得意としており、ネクタイや服地などに多用されている。今回はネクタイや洋服の端切れを生かし、縦約8cm、横11cmの名札ケースを制作、デザインは水玉やストライプなど12種類がある。

また、今回の「名札ケース」と同じ柄で他の製品の購入の希望も寄せられており、随時注文を受け付け名刺入れや小銭入れなどの様々な商品開発を行い、大月市内の観光案内所などで販売する計画と

●大月織物工業協同組合

TOPICS



名札ケース(見本)

なっている。組合では、市と連携してオリジナルデザインの生地製作も検討している。

和田廣行理事長は、「地場織物は外国製品の台頭により厳しい状況が続いているが、これをきっかけに素材の良さや技術をアピールする機会としたい。今後もこれまで以上に市と連携し、地域の伝統産業でもある大月の織物を全国へ発信していきたい。」と話してくれた。